

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



南スーダン緊急食料支援 P.4-5

見えない絆を回復させる働き

日本国際飢餓対策機構 理事 大友幸一

東日本大震災の後、私たちの教会では被災者の支援活動を始めました。まず、津波被害地域に出向いて支援物資を配布しました。次に被災した家屋の清掃、修繕に取り組みました。その後は仮設住宅で生活している人々のために様々なイベントを開いて、被災者の方々を励ましてきました。そして私たちの地区では、被災5年目になる昨年にはほとんどの人が復興公営住宅に移り、行政から被災者として特別な配慮を受けることはなくなりました。町の様子は以前とはまるで違う、都会化された雰囲気を漂わせています。

私たちは定期的に同じ被災者の方々と関わってきましたので、年配者である彼らの様々な悩み、将来への不安等を耳にすることが多くなりました。イベントの時、私たちはよく食料品を持って行きました。それが喜ばれていましたので、一昨年NPO法人「いのちのパン」フードバンクを立ち上げました。復興支援活動はこの春で終了しましたが、これから長く被災者の方々を励ますために、定期的に戸別訪問して食料支援をしていきます。対象者の多くはかつては農業従事者だったので、ある程度食べ物についてはまかなうことができ、家もあったので国民年金でも何とか生活できました。彼らは現在、マンションのようなきれ

いな住宅に住むことができていますが、家賃を始め水道光熱費、食費等、以前よりも支出が多くなりました。また、重い扉を閉じると周りの音が何も聞こえなくなることによる孤独感、社会からの疎外感が口から出てきます。

「白い檻に入っているようだ」「仮設住宅が懐かしい。不自由さはあったが隣近所と仲良かった」。そのような人たちに食べ物をお届けしながら声がけをしています。被災者は見えるものを失っただけではなく、隣人との関わりという見えないものをも失いつつあります。フードバンクの働きによって食料だけでなく、いくらかでも見えないものをも取り戻す手助けができるようにと願っています。

被災者の方々が、遠くから来ていたボランティアが帰る時「忘れないで下さい。見捨てないで下さい」と言っていたことを思い出します。その叫びを今では耳にすることはありませんが、被災者の心の中でいよいよ大きくなっているのではないのでしょうか。

日本国際飢餓対策機構は食料支援、災害支援を含めた様々な活動によって善隣共生を実現させようとしています。それは見えるものによって、見えない絆を回復させる働きなのです。

森 祐理親善大使 北米ツアー報告



シアトル日本人長老教会にて



栄光キリスト教会でのコンサートで歌った森祐理親善大使（シアトル）

2017年3月23日～4月4日、アメリカのオレゴン州、ワシントン州を巡るのコンサートツアーを行いました。これは、「愛の手インターナショナル (AINOTE)」と「日本国際飢餓対策機構 (JIFH)」の共催によるもので、今回で5回目となります。第1回目のサンフランシスコからロサンゼルス、ニューヨーク、ハワイと毎回豊かな恵みと感動にあふれた旅となり、支援の輪を広げる良き機会となっていますことを感謝しています。

今回は、AINOTE代表の藤川さん（写真⑥）のご体調がすぐれず、同行されなかったのですが、サンフランシスコの空港までご夫妻で会いに来てくださり、しっかりとバトンを受け取りました。藤川さんご夫妻の祈りを胸に刻んで、最初の地、オレゴン州ユージーンに飛びました。



恩師クラウス先生宅で奥様と涙の再会

ユージーンは、私個人的にもアメリカで特に思い出のある場所です。それは、私たち家族をクリスチャンへと導いて下さった宣教師クラウス先生ご夫妻が引退後に住まわれた地だからです。毎年のようにクラウス先生の家を訪れ、バイブルスタディをして頂いたことは、私の大切な糧になっています。クラウス先生は11年前に天国へ旅立たれましたが、ミセスが90歳の今もご健在で、感激の再会をすることが出来ました。「あの小さなユリが親善大使に…」涙を浮かべて喜んでくださったミセスの前でコンサートができたのは、大きな喜びでした。クラウス先生が愛したこの地に「ユージーン日本語教会」



ミセス・クラウス



林先生夫妻



マイク横井先生（森さん右隣）やツアースタッフとともに



ポートランドのJIBCでのコンサート



シアトルの日本人教会の先生方と



リンウッド日本人ファミリー教会にて



スタバ1号店で!

森祐理さん 福音歌手25周年記念 コンサートツアー情報

- 【香川】 9月18日(月・祝) 14時30分開場15時開演
サンポート高松第一小ホール
- 【釧路】 9月23日(土・祝) 14時30分開場15時開演
釧路市民文化会館小ホール
- 【静岡】 9月30日(土) 14時30分開場15時開演
静岡市清水文化会館マリナート小ホール
- 【愛知】 10月7日(土) 14時30分開場15時開演
名古屋市東文化小劇場
- 【東京】 10月13日(金) 18時開場18時30分開演
なかのZERO小ホール
- 【関西】 10月21日(土) 14時30分開場15時開演
芦屋市民センター ルナ・ホール
- 入場料 大人3,000円 小学生以下1,500円
未就園児無料 <<全席自由>>
(*釧路公演のみ、前売り2,500円 当日3,000円)

チケットのお申込み、お問い合わせ
モリユリ・ミュージック・ミニストリーズ
TEL:06-6762-2324

が誕生し、林先生ご夫妻はじめ教会の皆様と共に賛美を捧げた恵みの時となりました。

「子どもたちのために」の声に励まされ

ユージーンから車で2時間走ると、オレゴン最大の都市ポートランドです。翌日は、ポートランドにある「ジャパニーズインターナショナルバプテスト教会(JIBC)」での礼拝とコンサート。ここは、日本人教会として立派な会堂を持っておられ、牧師のマイク横井先生、副牧師の八十先生をはじめ皆様が生き生きとした活発な教会です。地域の新聞の第1面にも写真入りでコンサートの記事が掲載され、一般の方々もコンサートにお越し下さいました。終演後、「食べることすらできない子どもたちに何かしたいと考えていた。今日この働きを知って私もお手伝いしたい」と語られたご婦人の言葉に励まされました。コンサートに参加された地域の方々に、引き続き神様の愛と導きがありますよう今も祈り続けています。

神の愛と希望を届けることの喜び

オレゴン州からシアトルへの移動は、JIFHでインターンを務められた大島さんのお父様が引き受けて下さいました。JIFHと関わりを持った方が、世界中におられるのは本当に心強いですね。シアトルでは、「フェイスバイブル教会」のレディースティ(写真⑥)、「シアトル日本人長老教会」での親子コンサート、「栄光キリスト教会」、「リンウッド日本人ファミ



リー教会」、「日本インターナショナルバプテスト教会ベルビュー」の5ヵ所にてコンサートを行いました。いずれも思いがけない再会や出会いがあり、祝福に満ちた時となりました。ご婦人方、子どもたち、学生さん、国際結婚をされている方々…涙を流して聴いてくださったすべての方々の上に、引き続き神の御手がありますよう願ってやみません。JIFHの活動を通して、神様の愛と希望をお届けできることは本当に嬉しく感謝しています。

実は、最初にシアトルに来たのは、あの阪神淡路大震災の後でした。震災で負った悲しみを癒すために家族旅行を計画し、クラウド先生と共に訪れたのがシアトルだったのです。

シアトルの風景を見ると、当時のことが思い出されて複雑な気持ちもありましたが、同時にこの20年以上の恵みも数えました。今回、AINOTEとJIFHの働きをお伝えするために再びこの地を訪れることができたのは、特別な意味があったと思います。震災での弟の死を通して命と向き合うようになり、それがJIFHの親善大使の働きへとつながりました。悲しみさえもすべては神の御計画の中だと改めて思われています。

今回のコンサートツアーを通して、お一人お一人の心に神様の蒔かれた種が、いつの日か芽を出し、豊かな実を結びますよう心から祈り続けています。



2017年春 福音歌手 森 祐理 記



国民の半数が深刻な食料不足 南スーダン緊急食料支援を開始

増え続ける国内避難民への対応で状況がさらに悪化

南スーダンは2011年にスーダン共和国から10州が独立した新しい国ですが、政府軍と反政府軍による内戦が続き、160万人以上の人々が隣国のウガンダやケニアに難民として逃れています。一方比較的安全な上ナイル地方への国内避難民は189万人といわれています。

国際飢餓対策機構(FH)南スーダンは、中央エクアトリア州のジュバに拠点を置き、これまで上ナイル州、ジョングレイ洲、西エクアトリア州で、教育、学校保健、農業、栄養改善、生活基盤、保健衛生に関する支援を行って来ました。

しかし2013年12月から続く内

戦の影響は国中に及んでおり、FH南スーダンが活動している地域も例外ではありません。繰り返し起きる戦闘のため、作物の収穫量が低く、食料や燃料の価格が高騰しています。2016年7月のジュバでの紛争ではジュバならびに西エクアトリアで、一般市民に大きな犠牲が出ました。この時、国内避難民となった人々が戦闘が一段落したところで村に戻ってみると、家が焼かれ、畑は荒らされた上、財産はすべて持ち去られており、再び国内避難民となるしかありませんでした。

戦闘のために畑が荒らされて穀物が育たず、そこに日照りが続いたことで、西エクアトリアに逃れて



いた人々の食料事情は一気に悪化しました。また紛争の影響で続々と押し寄せる避難民の数が膨れ上がり、受け入れている地域の人々自身も食料が不足して栄養不良に直面しています。

国民の3分の1が家を失う

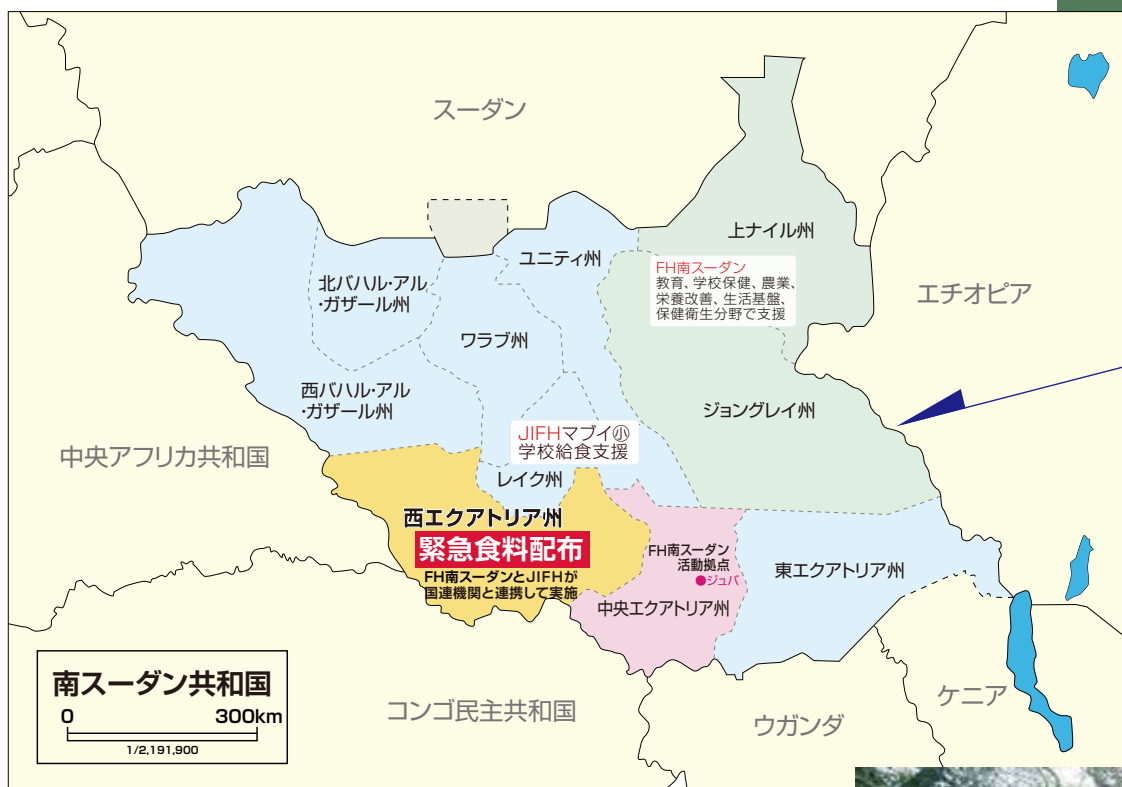
すでに南スーダン全体では国民の半数が深刻な食料不足に陥り、3分の1が家を失う事態となって



水場に来る避難民たち



家を追われた避難民の仮住まいの状況



2011年にスーダンから独立
人口：1,234万人（2015年）
首都：ジュバ
言語：英語（公用語）、他部族語
識字率：27%
出典＝外務省基礎データ

おり、FH南スーダンは、2010年
以来最悪の食料難に陥っていると
述べています。

FH南スーダンは、西エクアトリア
の大ムンドリ地域とムボロ郡
で、ここ2年ほど国際連合食糧農
業機関（FAO）と協力して持続可
能な農業を目指して支援プログラ
ムを行ってきました。今年は食料
難に対応するため、7,050世帯に対

また深刻な食料不足に
直面している人々の危機
的状況に対応するため、
国際連合世界食糧計画
（WFP）と協力して、緊急
用の食料袋（穀物15kg、
豆1.5kg、油900g）を配
布することとなりました。

この支援は、国内避難民や受け入
れ地域の困窮者、もと居た地域に
帰還しようとしている人たちや避
難してきた地域に定住しようとし
ている人たち、また、もと居た地
域が未だ危険なため、帰りたくて
も帰れず移動を続けている人たち
7,050世帯42,300人が対象です。

国連組織とNGOが連携

FAOやWFPなど国連機関が人
道支援として食料を用意していま
すが、資金が不足していてそれを
必要としている人々に届ける費用
を賄えない状況です。したがって
この役割は、地域をよく知るNGO
に担って欲しいとの要請がありま
す。輸送や分配のための費用が
なければ食べ物を必要としてい



舟を使って食料を配布する男たち

る人々のところに届けることはで
きません。

国民の半数の人が深刻な飢えに
苦しんでいるこの国で、必要とし
ている人たちに確実に食料を届け
ることができるよう皆様のご協力
をお願いいたします。

南スーダン 緊急食料支援

募金目標300万円

郵便振替00170-9-68590

日本国際飢餓対策機構

通信欄に「南スーダン緊急」と明記。

ウェブサイトからクレジットカード
もご利用になれます。

支援についてのお問合せは大阪事
務所 Tel:072-920-2225まで。



農具や野菜の種などを受け取る女性たち

して、穀物、農具や種、魚を獲るた
めの道具などを提供しています。

しかし大量の避難民が押し寄せ
続けているため、深刻な食料不足
となり、種まで食料としてしまう
恐れが出てきました。そうなれば
何とか生活を立て直そうと努力し
てきたことが無駄になってしまい
ます。そうした事態を事前に防ぎ、

フィリピン・ミンダナオ島

ティボロ地区に見られた変革

アポセンターでの支援を終えることができました

世界里親会は、2011年から韓国飢餓対策機構(=KFHI)のフィリピン・アポセンターとのパートナーシップのもと、約160名の子どもたちを通してティボロ地区の人々を支援してきました。6年間にわたる皆様のご協力によってこの地域の人々の生活は改善し、支援終了を迎えることができました。

子どもたちが通うティボロ小学校は、ダバオ市内から車で3時間の所にあります。人々はプランテーションで日雇い労働者として働いていますが、非常に貧しく食事は1日1回もしくは2回。子どもたちの栄養状態が悪く学校も欠席ぎみでした。

保護者の協力で水確保

現地では家庭訪問をして必要を見極めると同時に、週二回の給食で子どもたちの栄養を補う支援を行いました。また石けんを使って体を清潔にすることなどの衛生指導や健康診断・歯科検診を子どもたちに加え保護者や先生にも受けてもらいました。一方保護者の協力の下、学校の裏手に給水設備を建設し、飲み水に限らず多方面に使

える水を確保することで様々な必要を満たすことができました。

子どもたちへの支援の一環として遠足を企画しました。アポ山から降りてふもとの街に行き、映画を見たり科学館に行ったりレストランで食事をしたり、はじめての経験をたくさんしたことは学校での学習にもとても役立ち、先生や保護者にも大好評でした。教会日帰りキャンプで聖書の中から神様や家族、周りの人々を尊敬する大切さを学んだことも、子どもたちの全人的な成長に役立つものとなったことでしょう。

学校の制服や靴、文房具などの支援によって持ち物がなくなり、子どもたちは新学期を期待にあふれて迎えるようになりました。



頂いたものを大切に使って授業に臨んでいます。

子どもの成長が好影響

アポセンターで行われた6年間の活動は地域に大きな変化をもたらしました。子どもたちは以前に比べて特に精神面で成長し、勉強に意欲的になりました。そしてそれぞれの夢に向かって熱心に学んでいます。保護者たちはティボロ地区で行われた様々な行事にボランティアとして参加する中で、子どもたちに対する責任を自覚するようになりました。

これまでの支援活動によって変革された人々、築かれた共生社会がこれからも地域の変革のために協力していくこと、又子どもたちがリーダーとして成長して人々に仕えることができるよう願っています。

皆様のご支援を心から感謝いたします。



- ① スタッフによる家庭訪問の様子
- ② 歯科検診を受ける里子
- ③ キャンプで行われる聖書の学び
- ④ 遠足では沢山の体験ができました
- ⑤ 保護者の協力で給水設備も整備

サポーターを求めています!

チャイルドサポーターでは、アジア・アフリカ・南米5カ国で、貧困地域の生活改善と子どもたちへの教育支援を行っています。450人の子どもたちを応援してくださるサポーターをお待ちしています。お問合せは、大阪事務所まで。



常盤台バプテスト教会

ハンガーゼロ募金型自販機を教会に設置しておられる所が徐々に増えてきました。そのうち昨年設置して下さった同教会の友納靖史牧師にインタビューさせていただきました。



災害備蓄の必要性が高まり設置を決めました

Q ハンガーゼロ自販機を知られたのは？

JIFHのニュースレターに掲載されていたのを読んでいました。それと2011年の秋に、東北大震災の被災地に関わっていた時、PDFJ(パーパス・ドリブン・フェローシップ・ジャパン)とJIFHとが協力して行った、被災地の牧師セミナーでJIFHのスタッフから聞きました。

Q 設置を決めたきっかけは？

災害備蓄型として、また飢餓に苦しむ人々のための募金もできる自販機があるのは分かりましたが、その当時は教会に自販機を入れるということは難しかった。夏になると水分補給も必要ですし、教会としてもお水を用意はしていますが、それでも不足するという事で、やはり自販機は必要だと

いう話が出ていたのですが、まだ導入時期ではないかなと思っていたのです。4年前には幼稚園の保護者のみなさんに、備えることの大切さを説明して知ってもらったのですが、思いと行動を起こすことに時差がありました。東京が震災にあった場合には、幼稚園は、配慮の必要な親子に利用してもらい、教会は、一般の方に開放することにしようかと話をしていました。そして震災に対する備蓄や備えに対して教会員がやりとりをしていく中で、自販機の必要性が理解されていったのではないかと思います。

具体的な案内をもらって実際に進み始めたのは、昨年秋、教会と併設している幼稚園主催のバザーでJIFHのスタッフが救缶鳥(パンの缶詰)の説明をされたことからです。緊急時の利用だけではなく、さらに売上げの一部が飢餓に苦しむ方々の助けになるということも、ハンガーゼロ自販機を導入したきっかけになっています。

一石三鳥のシステムです

Q 利用くださっている皆さんの反応はいかがですか

教会員だけでなく 幼稚園のお



お客様に自販機飲料の写真を掲示して利用を促進

母さんたちも今までは近くの自販機に行っていましたが、ここを使ってくれています。メーカーが季節ごとに販売する飲料を考えて入れてくれているので、お客様が来られた時も自販機にある飲み物の写真をお見せして選んでいただいているのですよ。

意外と教会の方々でもこの働きを知らない方が多いですね。震災に対しての備えは大切だと思います。ハンガーゼロ自販機は、教会にとっても利用者にとっても、世界の方にとっても、一石三鳥のシステムだと思います。同じことを行うならば意味のあることに関わりたいと思っている方は多いと思うので、ただ飲料を購入するということではなくて、こういう働きに使われるならと思ってくださる方々が増えると嬉しいですね。



ハンガーゼロ自販機についてのお問い合わせは大阪事務所まで

無料で提供される備蓄用の水とパン缶



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

★Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに405710ポイント(円)のご協力(3837件)がありました。募金はTポイント募金で検索

2017 夏 ハンガーゼロ・ファシリテーター トレーニング(沖縄で開催!!)

「いつか海外で働きたい」「なぜ貧しい国があるの」「興味はあるけど、開発途上国で活動、となるとちょっと心配…」という方にもおすすすめです。飢餓や貧困、国内外で多発する災害対策について講義とグループワークで学ぶことができます。お問い合わせ、お申込みは下記まで



親善大使Manamiさんとの交流会もあります!!

【日時】 2017年8月15日(水)～19日(日)
【会場】 糸満青少年の家
〒901-0313 沖縄県糸満市賀数347
【費用】 30,000円(交通費は参加者負担)
【締切】 7月21日(金)
【定員】 15名(定員になり次第、締め切り)
★お問い合わせは東京Tel:03-3518-0781まで

ハンガーゼロ・コーヒーを買って 南スーダン緊急食料支援を応援!!

【レギュラーコーヒー モカ・ブレンド 200g入り】

2袋1,860円を1口とし、送料込2,000円

でお届け。(日本国内に限る。北海道、沖縄、離島は1,000円加算)1口あたり300円を南スーダン緊急食料支援として日本国際飢餓対策機構に届けます。



●受付メド切 6月30日まで

【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪市中央区本町1-4-12NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888
メール: customer@kbwin-win.org
Web: キングダムビジネスで検索。

★ご案内: ナイト de ライト 7/30 ZEPP 東京

JIFH 親善大使のナイト de ライトの単独ライブ「ZEPP 東京コンサート」(7/30 @18時～)にぜひお出かけください。詳細は公式サイトで。

サマーキャンプinボリビア 「宝探しの旅」に行こう!

8月のボリビアサマーキャンプの申込受付中です。ぜひ参加をご検討ください。先着順となります。現地では、小西小百合駐在員が随伴、子どもたちとの交流や支援地視察、恐竜の足跡観光などを行います。

【旅程&代金】8月14日(月)～26日(土)〈13日間〉

①早割価格34万5千円(6月9日までの申込の場合)

②通常価格35万円

※①②別途に空港税、燃油サーチャージが必要となります。
募集予定人数12名(最少催行人数10名、JIFHスタッフを除く)
問合せ・申込み: 東京事務所 電話03(3518)0781
eメール: jifhtokyo@gmail.com



ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在までに 4319口

今すぐ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ チャイルドサポーター(子ども1人4,000円)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口500円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ 住所: _____

..... (電話)

▼申込日: _____ 年 月 日 ▼NL 323号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ



大 阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
(広島) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東 京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OOCビル517号室
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛 知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
沖 縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送付作業の協力をして下さっています。

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。